＃２５６

こんにちは。塾長の大井です。

８期生受験戦記第９回です。

もう少し、３人の小６以前を振り返ります。今回も彼女たちの合格体験記を原文のまま記します。

雙葉Ｋさんが努力し続けられた理由について述べています。

『雙葉に合格できたのは、自分には努力の歴史があったからだ。3T でTOP に入ってから、目立ったさぼりや、ずるいことはしていないと自分でも思うし、それは本当にすごいことだと思う。しかし、これができた原動力は悔しさもあるがやはり戦友の存在だと思う。特に、一番近くで、一番長く見てきた(双子の)Ｓちゃんは自分の大きな刺激となった。Ｓちゃんも勉強から逃げることはしていなくて、いつもクラスで一番やっていた。そんなＳちゃんの背中を見ていると、自分もこれをやりたいと思えるようになり、アクセルを踏み続けられた。』

雙葉ＳさんはTOP で大切にしている”たすき”について熱く語っていまし

た。

『三つ目は、たてとよこのたすきがあることだ。出陣式(2/1 受験前日)の前にＨちゃん(７期生キャプテン)がカイロと手紙を渡しにきてくれた。思いがけないことだったけど、とても力になったしみんなのやる気もあがったと思う。他にも何回か熱い言葉をかけにきてくれたＴくん(６期生開成)などがある。このたてのたすきは当然 TOP にしかないものだ。ここまで、以前かよっていた生徒たちが応援したいという想いになれるのは TOP だからだ。

私は五年生のときＴくんの開成合格の瞬間に立ち会った。電話だったけれど、大井先生と田宮先生がものすごくよろこんでいたのがとても印象的だった。そうやって先ぱいたちの合格をみたり、先ぱいたちが励ましてくれたりすること、TOP 生として同じ想いを共有していくことが、たすきをつなぎ受けとるということだと思う。』

桜蔭Ｒさんは５年生に進級した時が印象深く残っていたようです。

『誰が絶対的エースというわけでもなく、いつも１位はいれかわっていた。そして私も絶対に１位になりたいという強い想いはなかった。

そのままの気分でついに５年生をむかえた。はじめに先生は４年生と５

年生はまるでちがうということを私たちに話してくれた。そして TOP で自分が心から愛情を注ぎ続ければ最幸、つまり最も幸せな受験が必ず出来るということを教えてくれた。

大井先生は私たちに質問をした。

「最幸の受験とはどういうことか。」

私は今まで自分を支えてくれた人に恩返しを合格でするということを言った。しかし私はその時に本当の意味で分かっていなかった。先生たちがどれくらいの想いで私たちに授業をし合格へ導こうとしているのかということ、両親が自分に注いでくれた愛情の大きさ、そして戦友とのきずなの深さに気づいていなかったのだ。

６期生のＴくんの開成合格の発表を聞いたのもその日だった。』

こうして TOP の「あの日、あの時」を振り返ってみると、彼女たちがどれだけ大切に TOP に通い、どれだけ真摯に受験道を歩み続けたかが強く伝わってきます。

そしてあの子たちに心を込めて注ぎ続けて、本当によかったと改めて深く思います。

（第１０回につづく）

２０２３年3月３０日

大井 雄之